

令和2年度 第4回四万十市文化複合施設整備検討委員会

協議内容及び結果

【日 時】 令和3年2月8日（月）18:30～21:10

【場 所】 四万十市役所本庁3階 303・304・305 会議室

【出席者】（委 員）15名（事務局）17名（うち Web 参加 10名）

【協議内容及び結果（要旨）】

1 実施設計について

(1) 市民ワークショップの報告及び実施設計図書の説明

事務局より、実施設計において、前舞台迫りの設置と引割昇降緞帳の採用を計画していることについて、以下のとおり説明。

前舞台迫りについては、前列3列の椅子が取外しでき、その部分を舞台面まで上げて前舞台として使う、あるいは、下げてオーケストラピットとして使うことが出来るように設計をしている。ライブハウスのように使いたい、ファッションショーや演劇などに使いたいなど、これから多様に使いたいというご意見をいただき追加した設備となる。委員の皆さんからは、有効だというご意見とメンテナンスコスト等を考えるともったいないというご意見と両方あったが、自主事業等で積極的に使っていきたいとの想いで設備を計画している。

また、引割昇降緞帳については、本緞帳と同じように上下に昇降し、加えて左右にも開くというものになり、多様に使っていただけると考えている。本緞帳と全く同じとはいかず、劣る部分もあるかとは思いますが、機能面、コスト面を考慮して引割昇降緞帳とした。採用している施設にヒアリングをし、使っている方にヒアリングもしたうえで、本緞帳と遜色なく使われているということだったので採用している。登録団体の方にもヒアリングをしたが、使う方も慣れていければ、という前向きなご意見をいただいている。

続いて事務局より、本年度実施した市民ワークショップに関し報告、大ホール舞台回りの計画等実施設計について説明。また、次年度予定している業務について説明。

[主な意見等]

・緞帳について委員会で一度も議論されることなく、引割昇降緞帳に決めたという説明を受けた。四万十市の文化協会に加盟し古典の活動をしている方全てに伝えたが、舞踊、邦楽の先生共に本緞帳が欲しいという強い希望があった。和の活動をしている者にとっては非常に大切なものであり、古典をやってきた者には譲れない部分である。中村では和の舞台は非常に頻度が高い。若い方たちが継承され、続く文化である。小京都中村でもある。本緞帳も引割昇降緞帳も両方を備えたらどうか。原画にお金をかける必要はない。寄付も含め、どうかして設けられる方法はないか。是非、再検討をお願いしたい。

・ 緞帳は音も光も遮断できる重要な幕。日舞、古典芸能の発表会には欠かせない。ホールの顔として、デザインで四万十市らしさもアピールできる。公演で幕と幕の間に緞帳を下ろして道具転換の作業を行う場合も音を消してくれる。引割昇降緞帳では本緞帳ほど音を消すことは出来ない。引割昇降緞帳を閉めた状態で舞台中の照明をフル点灯し、客席を暗転すると、薄っすらと明かりががついていることがわかる。引割昇降緞帳と一緒に暗転幕を下ろすという考え方もあるが、作業が複雑になり操作盤を担当するスタッフのテクニックも必要になってくる。本緞帳を設けるために費用がかかることは理解するが、企業や市民から寄付やふるさと納税、クラウドファンディングなどで少しでも協力をいただければ設置できるのではないかと。

→ (事務局回答) 本緞帳は、和物を演じる方にとって大切な設備であることは把握している。本緞帳と引割昇降緞帳、両方設けられればよかったが、概算では幕地だけで本緞帳は3,000万円程度、引割昇降緞帳は500万円程度。本緞帳用のバトンも荷重に耐えるものが必要になりコストがあがる。幕が格納される舞台上部の空間であるフライタワー（今は30m程度を想定）も今以上となる可能性もあり、建物の構造にかかるコストも増える可能性がある。本緞帳の幕地は寄付をいただければ後からでも設置できるよう、本緞帳用のバトンを設けておくかという庁内での議論もあった。しかし、先が見えない中でそこに無駄なお金をかけるよりは、柄や印象は異なるが昇降するという機能においては遜色のない引割昇降緞帳を採用する計画とした。

・ 何かをやるので本緞帳を止めたという抱き合わせでないならば、再検討いただきたい。本緞帳は今までずっとあったもの。利用する頻度も多い。

→ (事務局回答) 引割昇降緞帳も他のホールで十分に和物の公演にも使われている。最近では、引割昇降緞帳のみのホールも多くある。どちらが良いかについてはご意見があると思う。引割昇降緞帳と暗転幕を同時におろす作業が複雑というご指摘もあったが、舞台機構設備は全て電動で計画しているため、セットすればボタン一つで昇降可能である。他のホールでの事例から、引割昇降緞帳のみでも遜色なく使ってもらえると考えている。本緞帳を入れた場合も、和物以外の演目も考えると引割昇降緞帳は必要だと思う。両方を設けるべきだが、その分の費用が増えることに加え面積の問題がある。今回の施設は、市民の皆さんから、ホールだけでなく創造支援諸室についてのご要望も色々いただきながら、どこにどれだけ面積をとれるか苦労しながら設計を進めてきた。舞台の面積の中で、本緞帳用のバトンを追加すると、その他のバトンを減らしていく必要が出てくる。そうしたことも踏まえ、総合的に考えて決めてきた経緯がある。委員会で細かくご説明する機会がなかったが、引割昇降緞帳は、開閉だけではなく昇降もできるものだ。また、模様も色々つくれる。引割昇降緞帳でも、使ってもらえばそんなに遜色ないものではないかと考えている。

・ 前舞台迫りについて、機能があるのは良いことだと考える。ただし、施工予算もかかり、オープン後も保守点検の費用が発生する。また、迫りを動かす時には、安全確認のため通常よりも多くのスタッフが必要になる。迫りをつくる経費と稼働率を考えると、割りがあわないのではないかと。迫りがない場合、舞台上のスペースが欲しい場合は、主催者

側が大道具さんに依頼して仮設の張出し舞台をつくれればよいのではないかと。贅沢すぎるのではないかと。

→（事務局回答）ワークショップを行って行く中で、市民から多様な使い方がしたいというご意見があった。今まで使ってきてくださった方はもちろん、これから新しく使ってきてくださる方も含めて、色々な使い方に対応したホールにしたいと考え、迫りを提案させていただいた。市の方でも建設費はもちろん、メンテナンスなどに費用がかかることは認識している。迫りがあることでスタッフの数を増やさないといけないとご指摘いただいたが、電動なのでスタッフの数は変わらずにシフトの中でやっていけると確認している。主催者の方が前舞台を組んでくださることもあるかもしれないが、最初から機能があれば選んでもらえるホールになるのではないかと考え、今回採用させていただいた。

・迫りについて、当初はライブをするのにスタンディングができればよい、マンパワーを使ってステージをつくるのができればよい、椅子のボルトを外して除けるのができればよいと考えていた。これを使ってファッションショーとかライブとか色々な案が出た。この施設をつくるにあたって、ここにおられる委員の意見も大切だが、一番若い委員でも30歳台後半だ。子世代、孫世代に使えない施設を残したくない。新しい事ができる可能性が広がるのではないかと。このころで、賛同したい。ランニングコストもかかるかもしれないが、お金を生む施設にもなってほしい。四万十市の人数は減っているのに大きな施設はいらない、という意見も以前あったが、だからこそ、外から人に入ってもらえる施設にしなければいけないと思う。

・ホールを50年使うと考えると、今の文化センターを見ても音響反射板を設けるのは構造的に無理など、後から機能を追加出来ないことは多い。私は小学校の時に初めてオペラを観て感激した。子どもたちに毎年、オペラ、歌舞伎、狂言、能など、本物を観てほしい。文化庁が提供しているようなものを毎年呼んで、子どもたちに観させて、聴かせてもらえるとよい。そのためには設備が必要。本緞帳もいる。本緞帳がないために歌舞伎やお能やお三味線でもよいものが来てくれないのであれば、無理をしてでも揃えるべきだと思う。私たちも、例えば中村高校が甲子園に行った時には喜んでお金を出したのではないかと。検討委員が声をかけてでもお金を集めたらどうか。

[協議結果]

今回、設計に関しては質問だけの想定であったが、他に機会がないため意見をいただいた。緞帳に関する意見交換は一旦ここで区切るが、引き続きどこかで意見交換できるとよい。

2 管理運営実施計画について

(1) 前回議事要旨の確認

事務局より、第3回検討委員会で協議した内容について概要説明。

(2) パブリックコメント実施の報告

(3) 管理運営実施計画（最終案）について

※ (2)～(3)について、まとめて協議。

事務局より、12月18日から1月18日まで実施したパブリックコメントの結果報告（13人から計27件の意見あり）及びいただいた意見に対する市の考え方について説明。

また、前回委員会での意見やパブリックコメントでの意見を踏まえ、修正を加えた管理運営実施計画の最終案について説明。

前回委員会での意見を踏まえた主な修正箇所は、指定管理者による運営を使用料金制とする方向で検討することについて、現在のコロナ禍の影響を踏まえながらも、経営努力を促せる利用料金制への移行も視野に入れるよう、開館当初は使用料金制とする方向で検討するということに修正した。また、施設に配置する技術系職員の役割を明確にするよう、施設提供事業において主に技術的指導を行うという文面を加えた。

パブリックコメントでの意見を受けての主な修正箇所は、施設の使命について、文化芸術の施設でありながら都市計画の「まちづくり」のような文面になっていることから、文化芸術や生涯学習の活動を主体に地域への愛着を育み、地域の活性化にも寄与するという表現となるよう文面を修正した。また、収支想定に関し、人件費には給与以外に法定福利費、退職給付引当金、交通費等の手当などを含むこと、指定管理料を決定していくうえでは、事業者等へのヒアリングや見積書の徴収等を行い、可能な範囲で市の負担を軽減することを記載した。

[主な意見等]

- ・委員会でも議論が出ていた使用料の減免のことについては、今回は触れないということによろしいか。
→（事務局回答）減免の適用範囲について、具体的な検討はまだしていない。パブリックコメントでのご意見に対しても、それをこれから検討します、という回答としている。
- ・前回の意見も反映していただき、変な誤解を生むことはないかと思う。施設の使命に修正が入っているが、この変更については主旨を損なうものではなく、時間が経過してよいものに磨きがかかったという位置づけで捉えられる。

[協議結果]

管理運営実施計画の最終案については、事務局案のとおりとする。

3 提言書（案）について

事務局より、提言書（案）について説明。

整備検討委員会として本年度の協議を提言書としてまとめ、市長へ提出することとなる。

[主な意見等]

- ・「現在の文化センターは、維持管理が十分に出来ているとは言えません。」とあるのは気になった。委員会の提言としては、もう少し前向きな表現になるとよい。
- ・実施設計部分の迫りと緞帳について、どのようにまとめるか。「この点については議論できなかったが、こういった意見は委員の中にはある」という書き方をすべきではないか。提言書の議論という位置づけで緞帳についての議論をしたい。緞帳については議論する場がなかったという理解になるのか。それとも、パブコメやワークショップなどの場で議論をすることはあったのか。

- （事務局回答）緞帳については、ワークショップ等でも議論していない。庁内では議論しながら決めた経緯があるが、皆さんにお伺いする形をとれていないのが実情である。色々な活動をされる方がいらっしゃる中で、昇降するという機能としては同じものという認識で引割昇降緞帳を採用した。光も漏れないと他の施設から聞いている。費用面なども含め、総合的に判断をさせていただいた。議論する場を設けていなかった点については申し訳ない。
- ・引割昇降緞帳について、光は絶対に漏れないという確証はあるのか。ステージ内をフル点灯した場合や、ステージの奥から客席にムービングライトを向けて、幕が上がると同時に客席に光が当たるよう演出をする場合でも、光を完全にシャットアウトできるか。使い方として、古典芸能や学校の催し物を行う際は、本緞帳は必要だと考える。オペラやミュージカルであれば、引割昇降緞帳の方がよい。どちらをとるかは難しい問題だが、演目に対して必要なものは明白。四万十市で活動されている団体の数からすると、圧倒的に本緞帳を使う方が多い。本当は両方ある方がよい。しかし、どちらかならば、本緞帳の方がよい選択ではないか。それでも引割昇降緞帳にする場合は、引割昇降緞帳と暗転幕を一緒に昇降させる。電動といっても、モーターの力やスピードが違ったりすることもあり、ボタンを一緒に押せばよいというものでもない。裏方としては、どのように動かすかプランを考える必要がある。使用頻度として、四万十市の現状から考えると本緞帳は必要ではないかと考える。本緞帳と引割昇降緞帳のどちらがよいかは催し物によるが、使われ方からすればそう思う。
 - ・事前に市からお聞きした時は、予算的なこともあり、他の施設で対応できているのであれば、新しい設備に慣れるのも今後の利用方法かと思った。しかし、今日皆さんのご意見を伺い、また、これまで自分たちがやってきたことを思うと違う。大きな舞台では舞台裏の転換や作業が多くある。その時に外に音が漏れたり光が漏れたりするともったいない。非日常の楽しい時間を持ちたいと思って皆さんホールに来る。その方たちの満足度も高めたい。幕間の時間、緞帳が下りて何も聞こえないがその間に転換がされている期待感、そして再び幕が開いた時の舞台の変化を見る驚き、感動は大切なものだと思う。市民団体として催しに参加させてもらっているが、皆さん緞帳を大事にされている。演じる方も大切にしていることを思い出した。お金の問題はあるかもしれないが、出来れば本緞帳が採用できるとよいと思う。
 - ・緞帳はホールの顔だと思う。初めてホールに来て、ワクワクしながら緞帳の前で待つ。他のホールでは、本緞帳は寄付が多いように思う。寄付を求めるなら、もっと早く取り組めばよかったのと思う。今からでもクラウドファンディングなどで資金調達してもよいと思う。迫りもお金をかけてもよいと思う。これからの未来のために、子どもたちのためにも必要だ。ファッションショーをやったことがあるが、徹夜で仮設舞台を組んでくれるボランティアはなかなかいないので、こういった設備があるところを羨ましいと思っていた。とても良いと思う。
 - ・私も少し前に話を聞いた時は、緞帳の重要性を知らなかったので、引割昇降緞帳でよいのではないかと意見した。和物の公演をされる方以外は重要性を知らないから議題にもなっていないのではないかと。しかし、今、緞帳の重要性を聞いたので、考えてみる必要

性はあると思う。やるものを選ばないステージをつくってほしい。和物の公演がやりにくい施設になってしまうのであれば、それは違う。

- ・私は緞帳について知識不足だが、京都などで本物の舞台を見たときにワクワク感があったことはとても良く覚えている。3,000万円と500万円の違いは大きく大変だとは思いますが、これからの子どもたちが、四万十市にはこんなよい施設があってこういうことが出来た、と言えるようにしたい。ちょっと無理をして頑張っても、私たちの世代がつくり、次の世代の方に引き継いでいきたい気持ちもある。迫りについては、私も東京や京都などの都市部から来た方が文化センターで一生懸命工夫してやっているのを目にしてきた。多様性がある使い方ができる迫りは、魅力的だと思っている。
 - ・今から50年間使用する施設だ。子どもたちが長い目でみて満足して使える施設と考えると、和だけ、洋だけ、というのは無理があると思う。ニーズに応えたい。お金は必要だが、何とか工夫して両方できるとよいと思う。
 - ・どちらかを選ぶということが前提であれば、活動されている団体数としても和の割合が多いとは思っている。ただ、和の方もいれば、洋の方も、様々な活動をされている方がいらっしゃる。事前の説明では、費用のこと、他のホールでも引割昇降緞帳も増えてきており機能も遜色ないという簡単なご説明だったので、本緞帳の役割や機能については認識不足だった。費用が問題なければ両方備え、和の方もこれまでと同じように活動でき、新たに洋の方も、例えばバレエなどにもマッチする雰囲気を出せるようになればよいと思う。緞帳を両方設けるとするのは、費用の問題をクリアした場合でも難しいのか。構造上どちらかを選ばないといけないということなのか。改めてお聞きしたい。
- (事務局回答) まず、コストの面で言うと、幕地だけの比較ではない。幕地を吊り上げるためのマシンも本緞帳の方が重いため、価格が高い。また、スペース的な問題については、舞台の上部にフライタワーと呼ばれる30mくらいの高さの空間があり、そこにバトンや幕を格納するが、その上部、すのこの上にそれらを昇降させるための巻上機(マシン)がある。マシンを置くスペースにも限りがある。新たに何かを入れるためには何かを止める必要が出てくる。本緞帳か引割昇降緞帳かの問題として考えるのか、緞帳を両方入れるために照明バトンや他の吊物バトンの本数を減らすのか。引割昇降緞帳は昇降もする。和洋どちらにも使えるものとして、限りあるスペースを出来るだけ有効に使うよう引割昇降緞帳とし、柄などで和洋に兼用するとともに、照明バトンや吊物バトンを出来るだけ多く配置することで、演出の可能性を出来るだけ広げておくことがこれからのホールとしては良いと考えての計画である。
- (事務局回答) 本緞帳バトン用のマシンは高性能で大きいので、その分スペースをとられる。引割昇降緞帳も特別な幕であり、普通の幕よりも厚みもある。柄をつけてそれなりの雰囲気を出すことはできる。本緞帳を否定するつもりはないが、例えば歌舞伎では本緞帳は転換のためには使っていない。始まる前の広告としてスポンサーが出している。4枚、5枚の本緞帳が休憩時間に上がり下がりしているだけだ。本緞帳も下がった状態で床についているわけではなく、音も遮音していない。歌舞伎では定式幕が利用され、転換している音も雰囲気でもとなくわかるが、それを含

めて楽しむ。歌舞伎と市民利用は異なるのかもしれないが、本緞帳という和物に特化した象徴的なものが本当に必要なのか。実用的なところで工夫をして、引割昇降緞帳を利用するのか。本緞帳をやめる新設のホールが増えているのも現実だ。それも踏まえて、引割昇降緞帳を提案した。本緞帳を設ける場合、すのこを 30m より高くしなくても可能だと考えるが、舞台の奥行きは必要になる。

委員の皆さんの考えられている引割昇降緞帳のイメージと、設計者が説明した引割昇降緞帳は、少し認識が違う部分もあるのかもしれないと感じた。共通してご意見をいただいた象徴的な言葉として「次の世代に残すもの」「未来への投資」というキーワードがあった。今、少し無理をしても本緞帳の方がよいのではないかというご意見や「象徴」「舞台の顔」「伝統的な」「存在としての重要性」など。設計者から機能としては変わらないという説明もあったが、利用者側、演者側、裏方さんの感性としての機能の重要性についての話があった。それから、団体の活動について、四万十市としては和の方が活発ということを見ると本緞帳の方がよいのではないかというご意見もあった。この点については、委員会としては議論できる場がなかったという事実がある。しかし、重要な議論であるということを経済局にも改めて実感していただける場になったのではないかと。これからの結論がどうなるかはわからないが、今の議論に少し耳を傾けていただけないかをお願いしたい。ご提案いただいている引割昇降緞帳について、「例えばこんなものだ」というものが見せられて「ああ、これならば」という事があるなら、解決が図られるのかもしれない。同じような多目的ホールで、整備が進んでいる事例がある中で、同じような議論はあると思う。その中で皆さんはどのような議論をされているのか。それも参考になるのではないかと。あきらめたくないというのが本音だ。資金調達だけが問題なのであれば、それを何とかする。市役所の予算でなく、様々な活動をして叶えたいという想いを抱いている方もいる。そういったことにも少し耳を傾けていただければと思う。設計者の皆さんもそういうことも踏まえながら、四万十市の皆さんのこれからを考えてのご提案だと思う。それを我々ももう少し理解しなければならぬ。議論を深められるのは良いことだ。この提言書に関しては、この場でオーサライズ出来ない。私（委員長）と副委員長にお任せいただければありがたい。迫りについても緞帳についても、それぞれの立場でのご意見がある。それが当たり前であり、全く反対の意見を言われても恐縮する必要はない。それぞれの立場で勇気あるご発言をいただいたことに感謝する。こういった議論が出来たことは重要なことだと思う。

[協議結果]

提言書について、事務局案の緞帳に関する部分は修正することとし、その文面については委員長及び副委員長に任せる。また、「現在の文化センターは、施設の維持管理が十分に出来ているとは言えません。」という部分は削除する。その他は、事務局案のとおりとする。

4 その他

事務局より、現時点での建設費の見通し（基本計画時からの変更）について報告。建設費について、基本計画において約 50 億円と見込んでいたが、昨年度の基本設計、本年

度の実施設計を行う中で、それが61億円程になっている。また、地盤が緩いため、杭工事にも5～6億円かかりそうだということで、建物だけで66～67億円程の事業規模となっている。当初、基本計画時は、平成25～28年度に整備された全国の事例から75～76万円と平米単価を見込んでいた。当時、文化複合施設を着工する頃にはオリンピック需要などが収まって、建設物価の高騰はないだろうと想定していたが、今、建設物価を見ると、当時から10パーセント近い上昇がある。また、消費税の増税もあり、若干ではあるが施設の面積も増えた。建設コストの増大には明確な理由があり、適正な価格ではないかと考えている。